

新型コロナウイルスの遺伝子定量に関する国際比較試験の速報プレスリリース要約

国際度量衡局質量諮問委員会（BIPM/CCQM）の下部組織である核酸分析ワーキンググループ（NAWG, Nucleic acid Analysis Working Group）では PCR 検査の信頼性向上のため、新型コロナウイルスの遺伝子定量に関する国際比較試験（P199b-Capability in low level detection/identification of specific (pathogen)sequences: SARS-CoV-2 copy number quantification）を実施した。本国際比較は 2020 年 3 月に LGC(英国), NIMC(中国), NIBSC(英国)、NIST(米国)によって提案されてから現在まで約 6 か月という異例のスピードで実施された案件であり、2021 年初めには最終報告書が出される予定である。本国際比較試験には、NMIJ（産業技術総合研究所 計量標準総合センター）を含む 16 か国から 21 機関が参加した。各々の機関が提出した RT-dPCR 法による結果および、LC-IDMS 法をはじめとした SI トレーサブルな各種定量法の結果は、おおよそ±40%の範囲で一致することが確認できた。このことにより、新型コロナウイルスの PCR 検査における各参加機関の測定能力の国際同等性が確認でき、定量性の基盤となる「新型コロナウイルス定量のためのものさし（関連する標準物質等）」の開発が可能となった。